

アメリカにおけるリプロダクティブヘルス サービスへのアクセスと低所得者へのケア

— 価値観・宗教・国民の間にある神話の影響

特別講演

逐次通訳有り

ディーン・ハリス氏 (ノースカロライナ大学)
(Dean M. Harris, JD)

日時 2018年12月16日(日)14時～17時

会場 松ヶ枝福祉館 1階 生きがい活動

金沢市高岡町7番25号

このたび、ノースカロライナ大学のディーン・ハリス先生をお招きして講演会を開催することとなりました。ハリス先生のご専門はヘルスケアの法と倫理で、今回は「アメリカにおけるリプロダクティブヘルスサービスへのアクセスと低所得者へのケア：価値観・宗教・国民の間にある神話の影響」についてご講演頂きます。トランプ政権下におけるアメリカのヘルスケア制度の現状と、その根幹にある問題について学ぶ貴重な機会ですので、奮ってご参加ください。

参加費無料

申込不要

～ 講演要旨 ～

アメリカには豊富な資源があるにもかかわらず、ケアへのアクセスに関して深刻な問題を抱えている。これには、リプロダクティブヘルスサービスへのアクセスの問題と、低所得者へのケアの問題が含まれている。これらの問題は、アメリカ国民の間にある特有の価値観、態度および神話によって発展し存在し続けている。

たとえば、アメリカ人の多くは、彼らの支持する政党が政権にあったとしても政府を信用していない。加えて、彼らは、アメリカの医療制度が世界で一番であるという神話をいまだに信じている。

アメリカ的価値観は、社会連帯ではなく、むしろ個人主義や自立 (self-reliance) に重きを置いている。こうした価値観は、低所得者は政府からの施しに頼るべきではないという文化的な神話へと拡大していく。それ故、アメリカにおける低所得者への医療・福祉プログラムは、いわゆる「(支援を受けるに) 値する低所得者」と「値しない低所得者」を区別する態度に基づいている。

理論上、アメリカは「政教分離」が確保された非宗教的社会である。しかしながら、アメリカの宗教団体は、政策、法律、そしてヘルスシステムに大きな影響力を持っている。現在のアメリカ大統領と彼の政権は、信教の自由の保護を増大するための措置をとる一方で、リプロダクティブヘルスサービスへのアクセスを減退させている。リプロダクティブヘルスサービスについてアメリカで継続されている論争は、実際には、信教の自由と女性に対する差別の間の対立と捉えることができる。

共催

医療・福祉問題研究会

立命館大学地域健康社会学研究センター

ジェンダー・セクシュアリティ研究会

お問い合わせ先 (医療・福祉問題研究会)

E-mail : ihm1986★gmail.com

(送信時は、★→@に変えてください)